



知っていますか？ 周産期オープンシステム

妊娠がわかったらお産をする病院を決めて、妊娠中からその先生に診てもらおう。というのが、これまでの一般的な分娩のスタイルでした。

しかし、最近は分娩を扱っていない産婦人科医院やクリニックが増えたため、お産をする病院で健診を受けるためには時間をかけて遠くまで通院しなければいけない、という問題がでてきました。そこで、妊娠の異常や合併症などのない妊婦（ローリスク妊婦）さんの場合には、健診は近くの産婦人科で受けて、分娩は専門の態勢の整った病院で行う、という新しいスタイルが取り入れられ始めました。

これを「周産期オープンシステム」と呼びますが、アメリカやヨーロッパでは以前から一般的な健診、分娩のスタイルとして定着しています。

周産期オープンシステムによる妊婦さんのメリット

- 通常の妊婦健診は、かかりつけの産婦人科医院やクリニックで、都合の良い日に受けられる。
- 自宅に近い施設で健診を受けられるので、通院時間や待ち時間が少なくてすむ。
- 妊娠中に急な異常がおこった時には、いつでも分娩予定の専門病院で対応してもらえる。必要があれば入院もできる。
- 分娩は設備やスタッフなど態勢の整った専門病院で管理してもらえる。
- 母親学級なども分娩予定病院に通院している妊婦さんと同じように受けることができる。

分娩の時にあまり顔なじみでない医師や看護スタッフに診てもらうことに不安や心配を感じる方もおられると思いますが、健診施設と分娩病院の連携が十分にできていれば医学的には大きな支障はありません。

